

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和 2 年 3 月 2 日
大阪管区気象台

近畿地方の冬は記録的な高温、

近畿日本海側の冬は記録的な少雪となりました。

近畿地方の今冬（2019年12月～2020年2月）は、記録的な高温となり、統計開始（1946～47年）以来、地域平均の平均気温において、第1位の高温となりました。また、近畿日本海側では、記録的な少雪となり、統計開始（1961～62年）以来、地域平均の降雪量において、第1位の少雪となりました。

1 今冬の天候とその要因

期間を通して冬型の気圧配置は長続きせず、天気は数日の周期で変わりました。

上空を流れる偏西風は、日本付近では北へ蛇行しました。また、2020年1月以降は正の北極振動となりました。このため、日本付近への寒気の南下が弱く、暖かい空気に覆われやすくなりました。

2 近畿地方の冬の平均気温

地域平均気温の高い方からの順位

近畿地方各気象台の今冬の平均気温

順位 (高い方から)	平年差 ^{※1} (°C)	西暦年	観測点	実況値(°C) (※2)	平年値 (°C)	平年差 (°C)
1位	+2.1	2020	彦根	6.8(第1位)	4.6	+2.2
2位	+1.4	2007	京都	7.6(第1位)	5.6	+2.0
3位	+1.3	2016	大阪	8.7(第1位)	6.9	+1.8
3位	+1.3	1979	神戸	9.0(第1位)	6.9	+2.1
5位	+1.2	2019	奈良	7.0(第1位)	4.8	+2.2
			和歌山	8.8(第1位)	6.9	+1.9

※1 平年差：近畿地方のデータは、11地点（彦根、京都、舞鶴、大阪、神戸、豊岡、姫路、洲本、奈良、和歌山、潮岬）を平均した値です。なお、2020年の値は速報値です。そのため、後日変更となる場合があります。

※2 各地点における冬の平均気温の統計開始以来の高い方からの順位を表しています。
統計開始年：彦根（1893～94年）、京都（1880～81年）、大阪（1883～84年）、神戸（1896～97年）、奈良（1953～54年）、和歌山（1879～80年）

3 近畿日本海側の冬の降雪量

地域平均降雪量の少ない方からの順位

近畿日本海側の代表的な地点の
今冬の降雪の深さ3か月間の合計

順位 (少ない方から)	平年比 ^{※3} (%)	西暦年
1位	9	2020
2位	11	2019
3位	15	2007
4位	23	1979
5位	24	1972

観測点	実況値 (センチ)	平年値 (センチ)	平年比 (%)
彦根	9	98	9
舞鶴	14	191	7
豊岡	34	284	12

※3 平年比：近畿日本海側のデータは、3地点（彦根、舞鶴、豊岡）を平均した値です。
なお、2020年の値は速報値です。そのため、後日変更となる場合があります。

4 今冬の季節現象「初雪」の状況（近畿地方）

観測点	初 雪			
	今冬	平年値	平年差	昨年差
彦根	2019/ 12/31	12/13 ^{※5}	18日 遅い	22日 遅い
京都	2020/ 1/31	12/15 ^{※5}	47日 遅い	53日 遅い
大阪	2020/ 1/5	12/22	14日 遅い	8日 遅い
神戸	2020/ 2/5 ^{※4}	12/14 ^{※6}	53日 遅い	39日 遅い
奈良	2020/ 2/8 ^{※4}	12/12 ^{※6}	58日 遅い	30日 遅い
和歌山	2020/ 2/6 ^{※4}	12/17 ^{※6}	51日 遅い	40日 遅い

※4 自動観測による通報（2020/2/3から）です。

※5 平年値は更新前（2020/2/2まで）の値です。

※6 平年値は更新後（2020/2/3から）の値です。

問合せ先

気象防災部 地球環境・海洋課 担当 水野・藤原（天候の解説について）

電話 06-6949-6653 FAX 06-6949-6160

気象防災部 防災調査課 担当 上吹越・溝本（観測値や記録について）

電話 06-6949-6308 FAX 06-6944-2121